

金子台遺跡 ストーンサークル



出土品は、縄文時代後期の
加曾利B式土器を中心に
打製石斧、磨製石斧、石皿
などがあります。



町指定重要文化財 ストーンサークル 昭和 48 年 8 月 28 日指定

金子と山田の間に位置する台地は、1960年代に第一生命本社の移転計画（現ビオトピアの場所）により発掘調査がおこなわれ、多数の石の組み合わせが見つかりました。その下から死者を葬ったと思われる穴や人の歯の小片などが出土し、縄文時代後期（約4000年～3000年前）の墓地とみられます。

石の配置は、環状に石を並べたもの、大
きめの石を中心として周りに数個の石を
置いたものなど、いくつかのタイプがあ
り、副葬品として硬玉製の玉、土偶、土器
などが出土しました。

国内のストーンサークルは、縄文時代中期以降、信仰に関係して造られたとされていますが、金子台の遺跡では明確なストーンサークルの形があまり見られないことから、近年、配石遺構の名称がふさわしいという見解が提示されています。

